

プロフィール

アメリカの大学にて開発経済学を専攻し、一般教養の学士を取得した後、コーネル大学にて労働経済学を中心に研究を進め、公共政策の修士号を取得。UNICEF 本部の Child Protection 部門にてインターンシップを実施した後、ラオスにて2年間 JICA の農村部における中小規模ビジネス支援プロジェクトに従事。その後、デロイトトーマツコンサルティングにて経営コンサルティングの経験を3年半積んだ後、本事業に参加し、ボリビアにて官民連携専門官として Global Compact の活動を支援。現在は JPO としてジュネーブにて UNICEF の民間パートナーシップ部署にて広報事業を担当。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

大学時代に NGO のフィールド研究を通じ、初めてホンジュラスという途上国を実際に訪問しました。貧困に苦しむ人々を目の当たりにし、自身の学ぶ経済学を少しでも人のために役立てたいと思うようになりました。それからは、いつかは国際機関に従事したいと思うようになり、JICA の開発プロジェクトや民間セクターでも途上国関連の案件に従事しました。本事業では、国際機関職員の方々と働ける貴重な機会を頂けるため、国際機関職員の第一歩としてとても有意義な機会だと思います、応募しました。

2. 国内研修に参加した感想は？

国際機関で様々な経験を積まれてこられたベテランの方から、自身の年代に近い様々な分野で活躍されている先輩方まで幅広い分野の方々のお話を伺わせて頂ける貴重な機会となりました。また、国際機関の人事で長年働かれてきた方との個別のコンサルティングセッションも設けて頂き、自身のキャリア目標に向けて積んでいくべき経験や具体的な面接指導等、多岐にわたる貴重なアドバイスも頂くことができ、とても有意義な研修となりました。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

海外実務研修では、ボリビアの UN Resident Coordinator Office (RCO)にて Public and Private Partnership Specialist として 2016 年に再起動したボリビアの Global Compact の活動を支援しました。主な業務内容は、組織の土台となる5つの分科会の設立や SDGs ベスト・プラクティス賞の実施、SDGs に貢献をしている企業活動の広報事業、等です。ボリビアの Global Compact では商工会議所の担当者が中心に活動を実施しており、重要なカウンターパートとして活動を共に実施してきました。



山岳地帯のため会議へはロープウェイで移動



分科会設立に向けたマルチ・ステークホルダー会議

分科会の設立においては、5つの分野に分かれ、企業から各分科会のリーダーを選出し、UNICEFやUNHABITAT等、国連組織からのサポート担当機関も設定しました。一般企業や政府、国連組織、NGO等様々なステークホルダーが参加する中、各分野におけるグローバル方針を踏まえ、共同プログラムを計画・実施しました。



SDGs グッド・プラクティス賞

SDGs ベスト・プラクティス賞は2018年度から毎年実施していく方針を打ち立て、活動に向けたリソース調達から活動の計画と実施、次年度に向けた改善案の考案等、様々な業務を担当しました。中南米地域では、二年に一度各国の代表組織が地域レベルのSDGs 賞を競う取組があったため、その参加に向け、ボリビア国内でも本活動を推進していきました。初めての2018年には60以上のイニシアティブの応募があり、その中で16のイニシアティブが賞を授与されました。

SDGs に貢献をしている企業活動の広報事業では、政府の提供する街中の看板や航空会社が機内で提供する月刊紙を通じた企業が関与するSDGs活動の可視化を担当しました。様々な媒体を通し、企業でも貢献できる持続可能な開発に向けた活動をPRしました。

その他にも、政府や企業、国連組織間のパイプ役として様々な個々の案件立ち上げにも関与し、マルチ・ステークホルダー・パートナーシップの促進業務に関与しました。



Amazonas 航空の月刊誌

4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

ボリビアはまだ経済があまり発展していない事もあり、多くの企業が中小規模であったり、大規模企業でも政治の影響を受けやすい公的企業が多く存在します。その様な環境下で官民パートナーシップを創出する業務はクリエイティビティと粘り強さを要しました。Global Compact の分科会を設立していくプロセスにおいて、政府や民間企業、NGO や学術機関、各国連組織と粘り強く地道

に協議を進める中で、これらの組織が彼らの組織活動を通してどれだけ既に SDGs への貢献をしてきていて、また他団体とパートナーシップを構築することにより相乗効果を見出す事ができるかという事を学ぶことができました。また規模に関わらず、多くの企業が自身の企業活動を通してどの様に自身の国の社会課題に取り組んでいけるか真剣に協議する中で、企業が社会で担う今後の役割の重要性を再確認することができ、更にこの分野で力を付け、貢献していきたいと感じました。

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

自身の最終キャリア目標は、民間セクターにおける持続可能なビジネスモデル改革の促進です。現在は、JPO プログラムを通し、UNICEF の民間連携部署において様々な経験を積ませていただいています。これからも、国際機関にてビジネス視点からの持続可能な経済モデルの促進に貢献していけるよう、知識や経験を積んでいきたいと考えています。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

国連組織で活躍する事を目指している方へはとても良い研修機会だと感じました。国内では、同じ分野でこれから共に活躍していく同志と出会う事ができ、海外実務研修では実際に国連職員の方々と国際的な環境下で働く機会が得られました。今後、国際機関で活躍するために必要なスキルや経験を積める貴重な機会になると思います。



RCO チームとのクリスマス会